

目標達成計画

事業所名 グループホーム幸豊ハイツ「ほのぼの」

作成日：平成 29年 3月 31日

市町村受理日：平成 29年 3月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	48	年齢や介護度が上昇する中で日常生活の中で役割を持って過ごしていただく。というグループホームでの基本的な過ごし方が難しくなっている中で、スタッフからのアプローチに工夫・検討が必要。	体力的な部分を加味しながらも、日中、無為に過ごされる事の無い様に役割や趣味、スタッフが付き添っての外出の機会を持っていく。	調理・清掃、縫物等の趣味の他、スタッフが主導する形であっても取り組める内容として手作業や書き物、体操(嚙下等)を含め働きかけを行っていく。	1年
2	33	高齢化・重度化が進む中での終末期の在り方について、ご家族・ご本人と話し合う機会を必要としているが、ご家族の遠方や高齢化の中で話し合う機会が持てていない。	主治医の往診や専門医への受診の中で必要な医療サービスの確認を行うと共にご家族・ご本人が希望される「終末」について確認をしていく。	外出に支障のある方については訪問、遠方のご家族様には電話・手紙でのやり取りの他、出来るだけ家族会等で直接、お話しを伺う機会を設ける事。又、後見人が付かれています方についても内容の再確認を行っていく。	1年
3	55	昨年、二件の居室内での転倒による事故が発生しており、安全・安心に過ごしていただける為の居室の設えや生活状況の確認が求められる。	転倒・転落の事故防止は元よりひやり・はつと報告の中で繰り返す事例に関してもスタッフ全員で確認をしながら安全に過ごしていただく。	環境評価「PEAP」の実施の継続の中で家具・調度品の配置や補助具のメンテナンスを含めて確認すると同時に床材(カーペット類を含む)や上靴・スリッパが、個々の、その時々現状に適しているかの確認を行う。	1年
4	29	地域に根差した事業所である為に地域の現状を把握する中で、相談や入居依頼等に応えられる事が求められる。	行政機関への情報提供及び居宅介護支援事業所との連携の他、町内の他のGH他の事業所との連携の中で地域への認知症への理解・啓発、相談窓口としての機能を発揮していく。	ケアケア交流講座や認知症サポーター養成講座等の地域への発信をしていく事、町内会の行事への協力・参加を行っていく。	1年
5	13	現在、受験に必要な経験年数は満たしているものの介護福祉士は1名であり、スタッフの資格取得に伴ったレベルアップが期待される。	毎月の事業所内研修では2項目を用意し一つはスタッフが担当する他、実践者研修等の参加や、法人内を含め外部研修への参加については勤務調整を行う等し参加に繋げていく。	スタッフ全員が年間2回の研修企画を行う中で自主性を成長させる中で、外部研修への参加を行う事で情報を取り入れ、資格取得への意欲を育てていく。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。